

GFSIは、20年にわたり、ベンチマーク要求事項と承認プロセスを通じて、食品安全認証プログラムの調和に取り組んできました。GFSIの「一度認証されれば、どこでも認められる」は、組織が食品安全能力を証明するためにはGFSIが承認する認証プログラムのどれか1つを取得すればよい、というこの目的を言い表しています。

一方、顧客とサプライヤーとの間では、第2者監査が一般的であり、両者の関係構築の重要な部分となっています。しかし、第2者監査は、GFSI承認プログラムに含まれる監査の側面を繰り返しているとの批判があります。

長い間、「一度認証されれば、どこでも認められる」は、GFSIが承認した認証プログラムによる第三者認証で第2者審査を置き換えるという野心だと誤解されてきました。しかしGFSIは、第2者監査と第3者認証の両方が異なる目的を果たし、補完的であるべきだと考えています：

- 第3者機関による監査で、国際的に認知された共通規格との整合性を検証しています。
- 第2者監査は、主要な顧客／ブランドの差別化要因に焦点を当てるべきです。

GFSIが承認した認証プログラムのいずれかを取得することで、安全な食品を生産するための不可欠な要素である堅牢な食品安全システムが保証されます。それは、GFSIによる次の2つの中心的な活動によるものです。

- GFSIベンチマーク要求事項は、食品安全に関する産学の専門家との協議のもと、国際的に認められた食品安全基準（食品衛生に関するコーデックス委員会、OIE）と整合し、またそれらを参照しています。
- GFSIベンチマーキング・プロセスは、認証プログラムがGFSIベンチマーク要求事項に継続して適合していることを強固に検証します。

よって、GFSIが承認する認証プログラムにサプライヤーが認証されている場合、顧客から要求される基準には食品安全要素が不要であるべきであり、第2者監査はブランド/企業の差別化要因において意味を持ちます。

なおこれは、顧客が認証された組織やサイトを訪問した際に、前述の国際基準や、組織が認証されている第3者基準に言及して、食品安全の実践について懸念を表明することを妨げるものではありません。

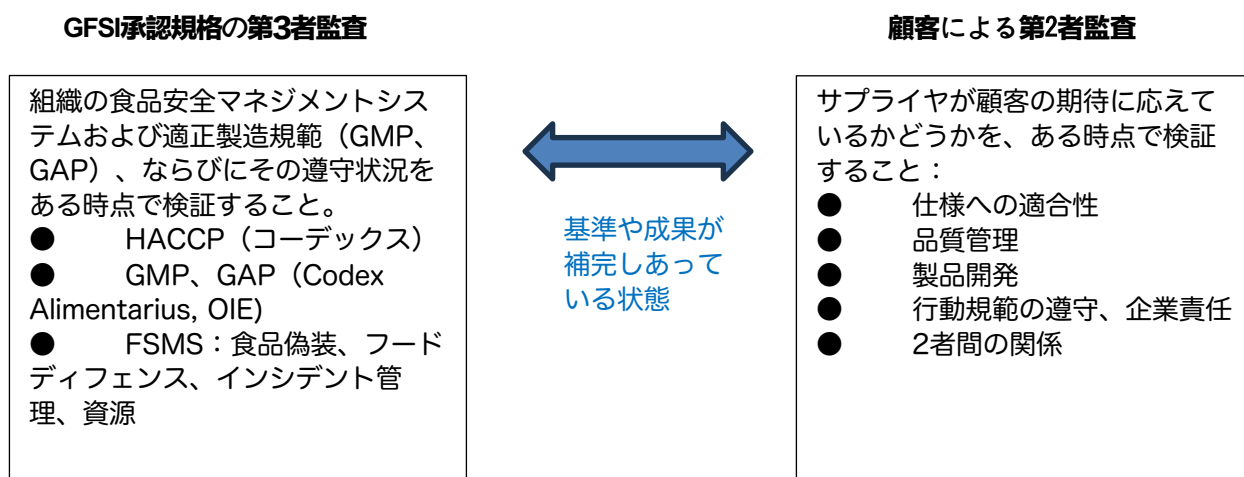


表1：GFSI承認規格と第2者監査の相補的な役割